

2023 年度事業報告

(2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日)

I 事業概要

公益社団法人日本 WHO 協会は、国際連合の専門機関である世界保健機関（World Health Organization: WHO）憲章の理念に賛同し、WHO との密接な連携のもとで、国内外で健康増進活動を行っている。これまでも、WHO 西太平洋地域事務所（WPRO）や健康開発総合研究センター（WHO 神戸センター：WKC）をはじめ、多くの WHO 関係者との連携のもとで活動を行ってきた。

2020 年度以降、本協会は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックの影響を直接に受け、同時に多くの学びを得ることになった。健康に過ごすことのできるウェルビーイングといのちの大切さとともに、自国だけで感染症対策が完結しないことを理解したうえでグローバルな国際協調の重要性を再認識した。

とくに、2023 年度は、日本 WHO 協会にとって新しい飛躍への前兆を感じる 1 年であった。若い世代の人たちが参画してくれた機関誌『目で見ると WHO』（年 4 回発行）の紙面の充実、「関西グローバルヘルスの集い（KGH）」の開催（合計 5 回実施）、サラヤだれひとり基金の発展など、本協会の活動が一気に拡充した。特に、2023 年 4 月 7 日に大阪商工会議所において「世界保健デー 2023」を初めて対面とオンラインのハイブリッドで主催し、世界保健デーのテーマ「Health for All！（すべての人に健康を！）」に合わせ、仲佐保氏（シェア共同代表）、新福洋子氏（広島大学副学長）にご登壇いただいたことは意義深いものがあった。また、12 月 4 日に日本セルフケア推進協議会（JSPA）との共催により、東京の帝国ホテルにおいて WHO セルフケアガイドライン翻訳の記念シンポジウムを開催し、WHO 本部スタッフがオンラインで登壇したことは特筆に値する新規事業であった。また、うれしいことに、2023 年には、全国の高校や大学から日本 WHO 協会を指名して声がかかることも少なくなかった。

次年度は、WHO に関する関心が広がり日本 WHO 協会の知名度が高まったこの時機を逃すことなく、「チャレンジの 1 年」としてより積極的に活動を展開していきたい。

このように、急速に活動が発展するなかで、事務局体制の充実と財政面でのマネジメントは喫緊の課題である。会員の拡充や安定した経営戦略をめざし、事務局員の増員や次世代を見通した組織運営を図っていく。

以下に、定款第 4 条（事業）に準拠してその概要を報告する。

1. 啓発事業

(WHO 憲章精神の普及及び健康に関するフォーラム等の開催並びに機関誌広報等の啓発事業)

① ウェブサイトの拡充とメールマガジン発信

- 1) ニュースを **508** 件（前年度は 460 件）発信した。
- 2) メールマガジンを **27** 回（234 号～245 号及び臨時号）発行した。配信先数は前年度に比べ **997** 増加し **6,764** となった。
- 3) WHO のウェブサイト に疾病や健康課題に関する一般市民向けの基本情報として公開されている「ファクトシート」のキーファクト部分について、2014 年 3 月に WHO 本部より付与された翻訳権に基づき日本語版を訳出し、改訂の都度見直して WEB 上で公開した。本年度は、**123** 件の見直し・追加を行った。現在のファクトシートは **225** である。
- 4) Web サイトの閲覧状況（PV 数）は、月平均 **10.3** 万 PV で推移した。（昨年 の月平均 8.5 万 PV から 1.8 万 PV 増加）

② 機関誌の発行

機関誌「目で見える WHO」を 4 回発行し、会員やイベント参加者等関係先への配布のほか、国立国会図書館をはじめ自治体図書館等へ送付すると共にウェブサイトでも公開した（公開時期は、従来の刊行後 6 か月から 3 か月に短縮）。

- ・編集委員会を開催し、年間計画の策定および台割ごとに担当を決め執筆依頼から校了までを行い、入稿原稿は 22 人のサポーターの支援を受けた。また、業務マニュアル及び原稿チェックリストを都度改訂し関係者で共有した。

- ・掲載記事は概ね以下の構成とした。

役員挨拶、巻頭特集、セミナー・イベント報告、NGO・団体報告、国際保健を学べる大学・大学院、WHO 職員日記、留学生日記、直近 3 か月の WHO ニュース、関西グローバルヘルスの集い報告、書籍紹介コーナー

② フォーラムの開催

新型コロナウイルス感染症の影響で、オーラルヘルスセミナーは中止とし、他のイベントも原則としてオンライン開催とした。

1) WHO 世界保健デーイベント「世界保健デー2023」

2023 年の世界保健デーのテーマ「Health for All!（すべての人に健康を!）」に合わせ、イベント「世界保健デー2023」を 4 月 7 日に開催した。

開催概要は以下の通り。

- ・アドバイザー・グループの皆さま方（6 名）からのご挨拶
- ・動画作品「Our Planet, Our Health」受賞式と受賞作品の上映
- ・パネル・ディスカッション「Health For All」（すべての人に健康を!）

座長：中村安秀理事長

パネリスト：「プライマリー・ヘルス・ケア 40 年の道」

仲佐 保 氏（シェア=国際保健協力市民の会共同代表）

「タンザニアの妊産婦の健康を促進するアプリと医療在来知」

新福 洋子 氏（広島大学副学長 医系科学研究科国際保健看護学教授）

また、2024年の世界保健デーのテーマ「My health, my right（私の健康、私の権利）」に合わせた啓発イベントの開催（4月7日）準備を行った。

2) 関西グローバルヘルスの集い (KGH)

グローバルヘルスに関する諸問題について、あらゆる角度から自由闊達に議論ができる場の提供を目的として開催した。企画から実施までは委員会を組織し、運営を行った。感染防止のためすべてオンライン（Zoom+YouTube）開催とし、一週間の見逃し配信も行った。

◇第7弾 《Health For All への道：平和と紛争・戦争》（3回シリーズ）

・第1回『紛争・戦争を経験すること』

（2023年6月29日、参加者 207名）

話題提供；「戦乱のスーダンで地域保健医療を考える」

川原尚行氏（認定NPO法人ロシナンテス 理事長）

「ルワンダ難民キャンプから始まった長い旅路」

永遠瑠マリールイズ氏（ルワンダの教育を考える会 理事長）

・第2回『難民になるということ』

（2023年7月27日、参加者 253名）

話題提供；「難民になるということ」

小林潤氏（琉球大学 教授、メータオクリニック支援の会 代表理事）

「アフガニスタン 戦禍からの再生・希望への架け橋」

レシャード・カレド氏（NPO法人カレーズの会 理事長）

・第3回 秋のグローバルカフェ『戦争と平和をみんなで考える』

（2023年9月30日、参加者 15名）

対面開催、会場：大阪本町・サラヤメディカルトレーニングセンター）

話題提供：ナン ミャ ケー カイン 氏

（京都精華大学国際文化学部グローバルスタディーズ学科特任准教授）

中村 安秀 氏

（公益社団法人日本WHO協会 理事長）

◇第8弾 《Health For All への道：健康の社会的決定要因》（3回シリーズ）

・第1回『Health For All への道：健康の社会的決定要因』

（2024年1月23日、参加者 107名）

話題提供；「世界の女性と貧困」

池上清子氏

（プラン・インターナショナル・ジャパン 理事長、前長崎大学教授）

「国際精神保健とウェルビーイング」

堤敦朗氏（金沢大学融合研究域・教授）

・第2回『格差：原因を解明し、縮小する』

(2024年3月5日、参加者 233名)

話題提供；「健康格差社会の新たなステージ」

近藤克則氏（千葉大学予防医学センター教授）

「ソマリアは日本のへき地の延長線上にあった」

國井修氏（グローバルヘルス技術振興基金 CEO）

3) ワン・ワールド・フェスティバルへの出展（2024年2月3～4日）

西日本最大の国際協力・交流のお祭り「ワン・ワールド・フェスティバル」（梅田スカイビル・ステラホール）に2日間にわたりブース出展し、2月3日にはセミナー（プログラム出展）を行った。

《テーマ》わたしたちの地球、わたしたちの健康「Our planet, Our health」

《講演》「戦争・紛争下における健康について考える」

佐々木 康介 氏（高知県立大学看護学研究科）

「ウガンダ難民居住区の女性支援の事例からレジリエンス強化のアプローチ」

桑名 恵 氏（近畿大学国際学部・教授）

③ その他啓発事業

1) 「Our Planet, Our Health (わたしたちの地球、わたしたちの健康)」 「Health For All」 (すべての人に健康を!) 動画募集

さまざまな表現による市民の発表を動画の形で募集し(2023年9月1日～2024年1月9日)、応募総数37作品の中から6名から構成される選考委員会により優秀賞3作品、奨励賞7作品を選考しWebサイトで発表した。

表彰式は世界保健デーイベント（2024年4月7日）において行い、その後、受賞作品をWeb上で公開する予定である。

2) 外部からの問合せ対応

事務局へは日常的にメールや電話によるWHO関連情報に関する問い合わせがあり、当協会の立場を明確にしつつ対応を行った。

2. 研究事業

(健康に関する調査研究の受託・斡旋・委託及び助成並びに研究成果に基づく提言等の研究事業)
今年度は、受託・委託等の事業は実施しなかった。

3. 連携事業

(国内外で健康に関する社会貢献活動を行う企業、団体並びに個人との連絡・調整・協力等の連携事業)

① 関西感染症フォーラム

以下の講演をハイブリッド方式で行った。(2023年9月16日、会場参加者：142名、オンライン参加者1457名)

- ・ Opening Remarks 一山 智 先生 (医療法人 医仁会武田総合病院 病院長)
清水 潤三 先生 (市立豊中病院 外科 部長)
- ・ マスギャザリングと感染症～感染症から自分も守る、みんなも守る～
講師：三嶋 廣繁 先生 (愛知医科大学 医学部 臨床感染症学講座 主任教授)
- ・ 病院環境管理について – 紫外線照射を含めて –
講師：金井 信一郎 先生 (信州大学医学部附属病院 感染制御室 副室長)
- ・ 改訂された CDI ガイドラインのエッセンス
講師：國島 広之 先生 (聖マリアンナ医科大学 感染症学講座 主任教授)
- ・ 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)とインフルエンザの現状と対応について
講師：岡部 信彦 先生 (川崎市健康安全研究所 所長)
- ・ Closing Remarks 掛屋 弘 先生
(大阪公立大学大学院医学研究科 臨床感染制御学 教授)

② 医療従事者応援はがきプロジェクト

前年度に引き続き、小学生、中学生、支援学校生を対象に「医療従事者応援はがきプロジェクト」を実施した(2023年6月14日～9月22日)。応募総数346作品の中から、5名から構成される選考委員会で優秀賞13作品、奨励賞28作品を選定し、優秀賞作品はWebサイトで公開した。

また、上記の作品を掲載した作品集を作成し、97部をJA厚生連医療機関、病院関連に贈呈した。2024年カレンダーを作成し、150部を感染症指定病院、協賛企業、法人会員等へ贈呈し、86部を有償頒布した。有償頒布の利益はラオス小児外科プロジェクト関連のラオスの医療機関に寄付予定。

③ 日本民間公益活動連携機構(JANPIA)の資金分配団体としての申請準備

外国人の医療体制整備を対象事業として、関係機関・団体との調整を進め、公募に応募したが、不採択となった。

④ 以下について後援名義使用を許諾し、事業に協力した

- ・第44回むし歯予防全国大会 NUMAZU(日本フッ化物むし歯予防会) ・日 UNRWA 関係樹立70周年記念「母子手帳関連イベント@ガザ」(UNRWA 国連パレスチナ難民救済事業機関) ・「気候変動・生物多様性損失と人間の健康・社会:学際研究から(日本学術会議環境リスク分科会) ・第16回適塾講座「パンデミックをジェンダー視点から考える～Diversity&Inclusion」(大阪大学適塾記念センター)、世界糖尿病デー2023(大阪糖尿病対策推進会議) ・第31回ワン・ワールド・フェスティバル(ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会) ・「公衆衛生に国境はない:Beyond SDGsとしてのプラネタリーヘルス」(日本公衆衛生学会自由集会) ・「母子健康手帳フォーラム」(日医総研) ・新春トップセミナー(一般社団法人生産技術振興協会) ・女性の健康週間2024 in 大阪(一般社団法人大阪産婦人科医会) ・国際連合公用語英語検定試験2024(公益財団法人日本国

際連合会)・第14回母子手帳国際会議(国際母子手帳委員会)・「移民がはぐくんできた歴史と文化から学び、これからの医療を考える」(大阪大学大学院医学系研究科)・世界ソーシャルワークデー2024 記念ワークショップ(日本ソーシャルワーカー連盟)・健康の日フォーラム 2024(花王株式会社)

⑤ **大阪教育大学 WWL (ワールド・ワイド・ラーニング) 事業**

国内協働機関として参画し、中村理事長が運営委員として参加した。

⑥ **(一社) 大阪薬業クラブ助成事業への応募**

2024年秋に開催予定の jagh-s との共催フォーラムに関する助成申請が採択され、50万円の交付を受けた。

4. 支援事業

(WHOの事業目的達成に寄与するための募金活動及び募金収益の拠出並びに活動協力等の支援事業)

エイズ撲滅を進める目的で本会のフォーラム等の機会を活用して募金活動を継続実施し、集まった35,462円を(公財)エイズ予防財団へ寄付をした。

5. 人材開発事業

(国内外の健康の向上につながる人材の育成・援助等の人材開発事業)

1) **日本国際保健医療学会学生部会(jagh-s)との共同企画セミナー**

『日本だけじゃない！迫り来るアジアの高齢化～明日を担う私たちができる、国際支援～』

(対面開催、参加者数：17名、) (大阪薬業クラブ助成事業)

講演および講師

・「アジア地域の高齢化とその対策～日本と世界の視点から～」

講師：楽木宏実氏 (大阪ろうさい病院院長)

2) **WHO インターンシップ**については、支援対象者はなかった。

II 総会、理事会等

1. 2023年6月14日、**定時社員総会**を開催し、2022年度の事業報告、決算報告の議案を承認し、理事4名(重任2名、新任2名)の選任を承認した。
また、2023年度の事業計画及び収支予算書について報告した。

2. 2023年度は**理事会**を7回（うち、電磁的理事会2回）開催し、法人の業務遂行に必要な決議等を行った。

事業報告及び決算については定款第46条に基づき監事の監査を受けた後、2023年5月24開催の理事会で承認した。

2024年度の事業計画と収支予算は、2024年2月21日開催の理事会で承認し、内閣府へ提出した。

3. 常任理事会を9回開催し、その協議内容については都度、理事会で報告をした

4. 会員の現況

2023年度末現在の会員数及び前年度との増減は以下の通りである。

会員種別	正会員 (個人)	正会員 (法人)	賛助会員 (個人)	賛助会員 (学生)	賛助会員 (法人)
2022年度末	35	16	228	12	45
(退会)	4	2	32	3	5
(入会)	7	0	19	1	1
【増減】	3	△2	△13	△2	△4
2023年度末	38	14	215	10	41